

## 大学名：東北大学大学院環境科学研究科

ASPUnevNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	ユネスコスクール加盟申請が行われチャレンジ期間が開始された福島県耶麻郡猪苗代町立猪苗代中学校から、SDGs・ESDの取組に関する指導を求められ、対応した。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	チャレンジ期間であった山形県立山形西高等学校から、ユネスコスクール加盟申請国内審査の書類提出準備について連絡があり、対応した。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ユネスコスクールである宮城県立仙台第三高等学校に対し第10回水環境学会東北支部研究発表会(2024年1月20日)を紹介し、成果発表や質疑を通じてESD/SDGsに関する取り組みの効果について振り返る機会を提供することができた。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ニーズが無かった。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	宮城県立仙台第三高等学校の学生による発表が第10回水環境学会東北支部研究発表会(2024年1月20日)において行われた。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	ニーズが無かった。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	機会が無かった。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	第10回水環境学会東北支部研究発表会(2024年1月20日)において、宮城県立仙台第三高等学校の学生が関連する学識者との交流を行った。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委	機会が無かった。

	員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	機会が無かった。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	機会が無かった。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	機会が無かった。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	活動報告書を研究科内で共有した。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	関連する講義で単位化されているものが無い。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ニーズが無かった。
	④ その他	その他はニーズ、機会ともに無かった。
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	機会が無かった。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	宮城教育大学の市瀬教授と連携して取り組んだ。
	③ その他	ニーズ等が無かった。